

(* 2) 山口県への要請文

山口県知事 村岡 嗣政 様

要請書「核兵器と戦争のない未来を願って」

1945年8月6日、そして9日、ヒロシマとナガサキ上空で、原子爆弾が爆発し、何万人という人々の命が一瞬のうちに奪われました。あの惨劇から69年がたった今も、被爆者は心と体を傷つけられたままです。

被爆者の方々は、苦しみを抱えながらも、核兵器の恐ろしさと平和の尊さを訴え続けてこられました。にもかかわらず武力による国と国との争いはあとを絶ちません。世界には、地球上の全ての生き物を何度も殺せる数の核兵器が、今も存在しています。

現在、世界6,035都市が加盟する「平和首長会議」には、都市と市民が国を越えて協力することで、争いのない未来を実現させようと活動されています。また、被爆終戦75年にあたる2020年までにすべての核兵器をなくすことを目標に「2020ビジョン」キャンペーンを展開されており、特にNPT再検討会議を控えた2014年は重要な年と位置付けられています。山口県の全市町の首長も平和首長会議に加盟され、わたしたち市民とともに核兵器廃絶に向け活動されています。

平和は安らかな生活の基本です。戦争はあってはいけません。特に、核兵器は何の罪もない多くの人々や、家族、友人、恋人など大切な人の命を一瞬で奪ってしまう、許すことができない「絶対悪」です。山口県在住の被爆者3,434名の平均年齢が81歳になりました。村岡県知事今こそ、市民と被爆者、自治体、そして子どもたちも一緒になって、ここ山口県から行動を起こし、核兵器も戦争もない平和な未来を私たちの手で実現していきましょう。

記

1. 平和首長会議が取り組む「『核兵器禁止条約』の交渉開始等を求める要請書」への賛同ならびに署名の協力をお願いします。
2. 「非核平和宣言(決議)」を行った自治体として、核兵器廃絶の実現に向けた活動を行っている「日本非核宣言自治体協議会」への加盟をお願いします。
3. 「市民に対する平和学習や被爆体験の継承」や「平和首長会議がすすめる原爆被害の実態を伝えるポスター展の開催」などの具体的な行動を、ともに行っていきましょう。
4. 非核三原則の法制化を、国に対して訴えていきましょう。
5. 山口県の被爆者への様々な援護活動に、ご理解とご支援をお願いします。

以上

2014年 8月 1日

山口県ピースアクション実行委員会
実行委員長 有吉 政博